

# 「でんきと私」

山口県立 萩商工 高等学校

電気コース 2年 濱永瑠生

私は先日、ものづくりコンテストの電気工事部門に出場する機会がありました。その大会に至るまでの練習や本番において、電気工事について色々考え、学びました。

まず学んだことは、電気工事のやりがいです。第2種電気工事士試験の技能試験では、机上に簡易配線を作るものだったので、あまり何かを作っている実感はありませんでした。しかし、ものづくりコンテストでは、合板2枚の壁に配線類を工事し、最後に動作試験をするため、より実際の工事に近い形で行うことができました。見た目が綺麗に仕上がった時の達成感や電源を繋ぎ、スイッチを入れてランプが点灯した時の達成感はとても大きなものでした。実際の電気工事では、もっと大きく複雑な回路を建物の中に張り巡らせて工事をします。全てを終えた時の達成感は考えられないほど大きなものだと思います。

2つ目に学んだことは、電気工事の重要性です。今や電気は、現代社会において必要不可欠なもので、電気工事はその中の根幹です。今後、どのような社会に変化しても、人間が電気というエネルギーを使い続ける限り、電気工事という職業はなくならないと思います。今回のコンテストを通して、どこにでもある電気配線を工事する人がいるということに再認識し、建物を見ると、どのような人がどのように工事をしたのか考える様になりました。

私は現在、2年生であと1年で就職です。電気の学習は難しく最初は中々理解することができませんでしたが、コンテスを通して電気に関する興味関心が強くなりましたので、残りの学校生活でしっかりと電気について学習し、社会のインフラを支える電気関係の仕事に就きたいと思っています。